

経済情報：2025年1-3月期の 実質GDP成長率（1次速報値）

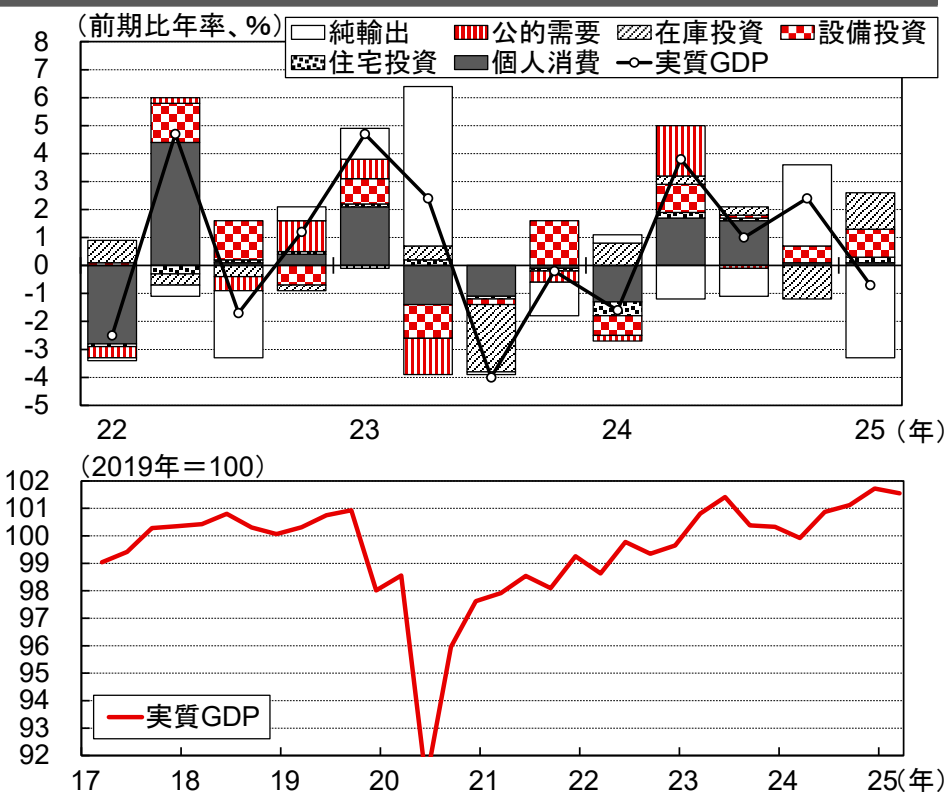
2025年5月16日

三菱UFJ銀行 経営企画部 経済調査室

1. 要旨

- 2025年1-3月期の実質GDP成長率(1次速報値)は前期比年率▲0.7%と4四半期ぶりのマイナス成長。民間需要項目はいずれも増加したものの、物価高を背景に個人消費が伸び悩む中、輸入増加による純輸出の押し下げが大きかった。
- 今年の春闘でも高い賃上げの実現が見込まれるなど、賃金の改善傾向は続いているものの、食料を中心とした物価上昇が引き続き消費者マインドの重石となり、消費の伸びを抑制しているとみられる。先行き、米国の関税政策に起因する海外経済の減速等により、日本経済は今年度半ばにかけて一時的に減速する可能性が高いものの、人手不足等も背景に賃上げの流れは今後も続くことが見込まれ、実質賃金の改善等を支えに、基調としての回復傾向は崩れないと予想。

実質GDPと最終需要の推移



(資料) 内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

四半期別実質GDPの推移(計数)

	2024年 7-9月期	2024年 10-12月期	2025年1-3月期(1次速報値)	
			(前期比年率, %)	
実質GDP	1.0	2.4	▲0.7	—
民間需要	2.8	▲0.7	3.5	(2.6)
個人消費	2.9	0.3	0.2	(0.1)
住宅投資	2.8	▲0.7	5.0	(0.2)
設備投資	0.4	3.4	5.8	(1.0)
在庫投資	(0.3)	(▲1.2)	—	(1.3)
公的需要	▲0.3	0.1	0.0	(0.0)
政府消費	0.4	1.3	▲0.1	(▲0.0)
公共投資	▲4.5	▲2.8	▲1.8	(▲0.1)
純輸出	(▲1.0)	(2.9)	—	(▲3.3)
輸出	4.9	6.9	▲2.3	(▲0.5)
輸入	9.2	▲5.5	12.1	(▲2.8)
GDPデフレーター(前期比)	0.3	0.6	0.9	—
名目GDP	2.2	4.8	3.1	—

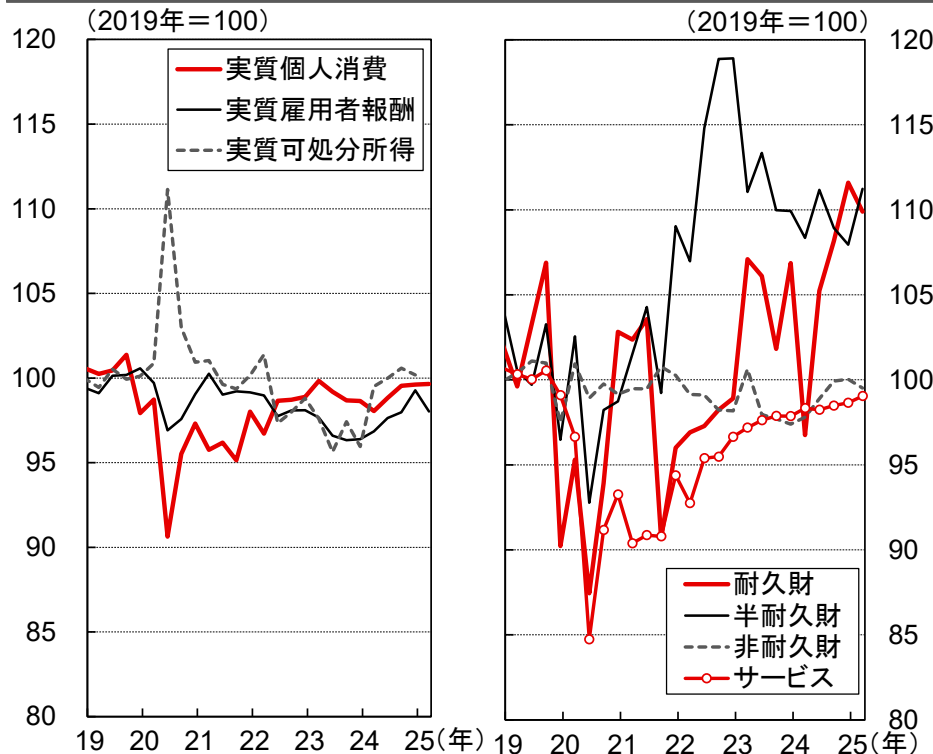
(注) カッコ内は、実質GDPの前期比年率伸び率に対する寄与度。

(資料) 内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

2. 内需項目

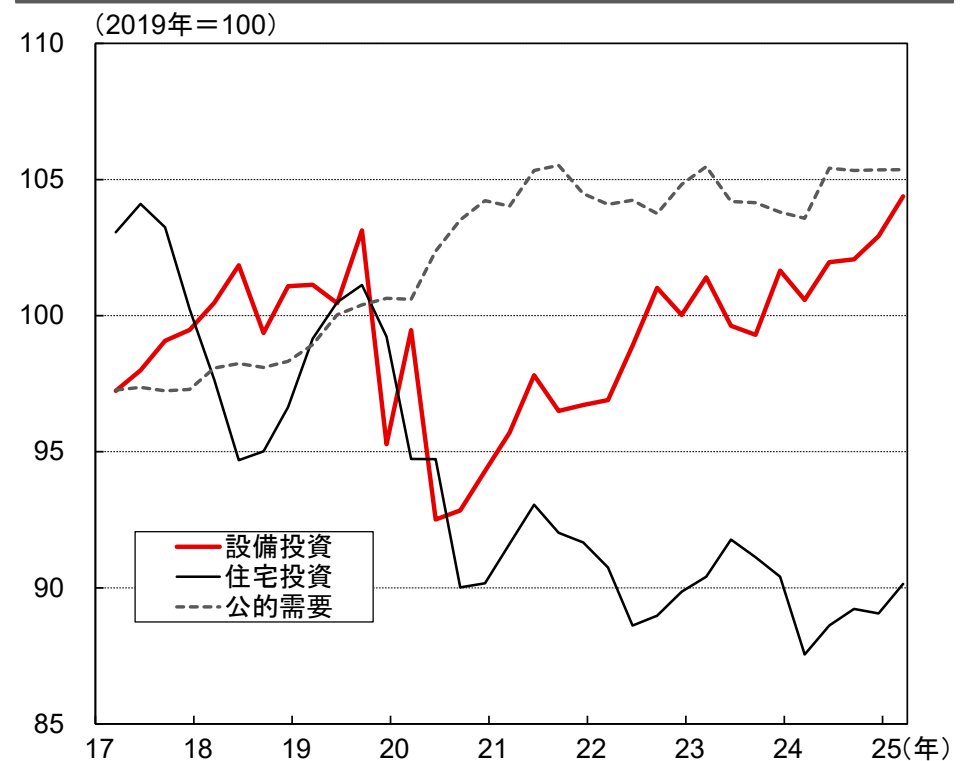
- 個人消費は前期比年率+0.2%と、4四半期連続で増加。冬の賞与が前年比で大きく増加し、実質所得の改善が続いているものの、米を中心とした食料品価格が上昇していることを受け、家計の節約志向の強まりが消費を抑制したとみられる。
- 設備投資は同+5.8%と、4四半期連続で増加。高水準の企業収益が続くなか、研究開発やソフトウェア投資など企業の設備投資の増加が続いていることが背景にあるとみられる。
- 住宅投資は同+5.0%と、2四半期ぶりに増加。
- 公的需要は同+0.0%と、僅かながら2四半期連続で増加。

実質個人消費・所得、財・サービス別実質個人消費の推移



(資料) 内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

その他の内需項目の推移

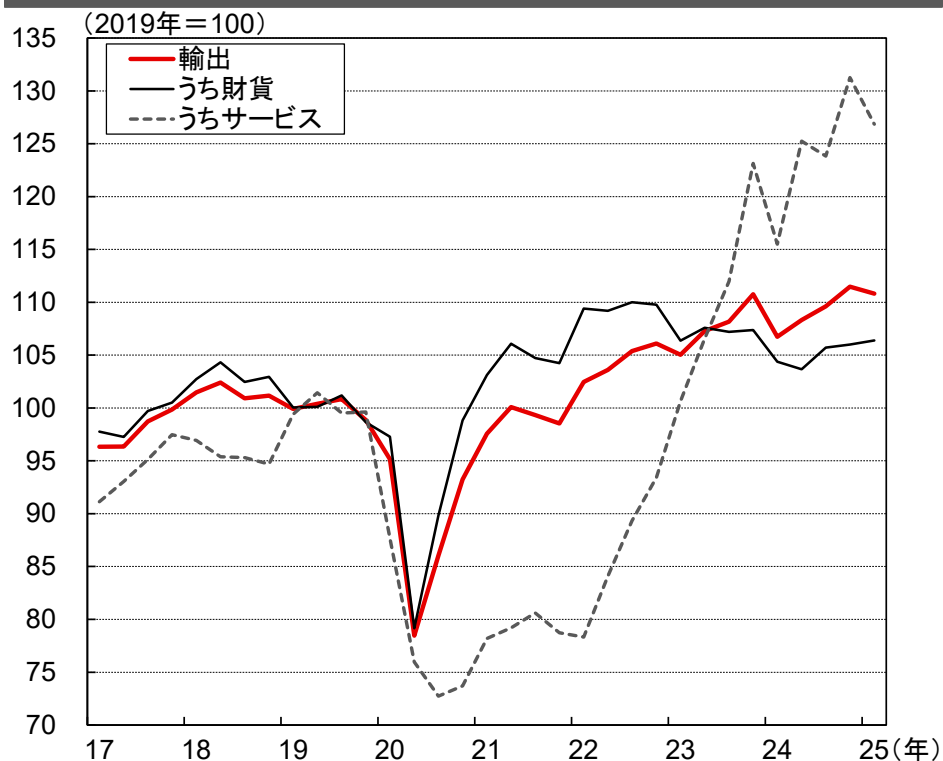


(資料) 内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

3. 外需項目

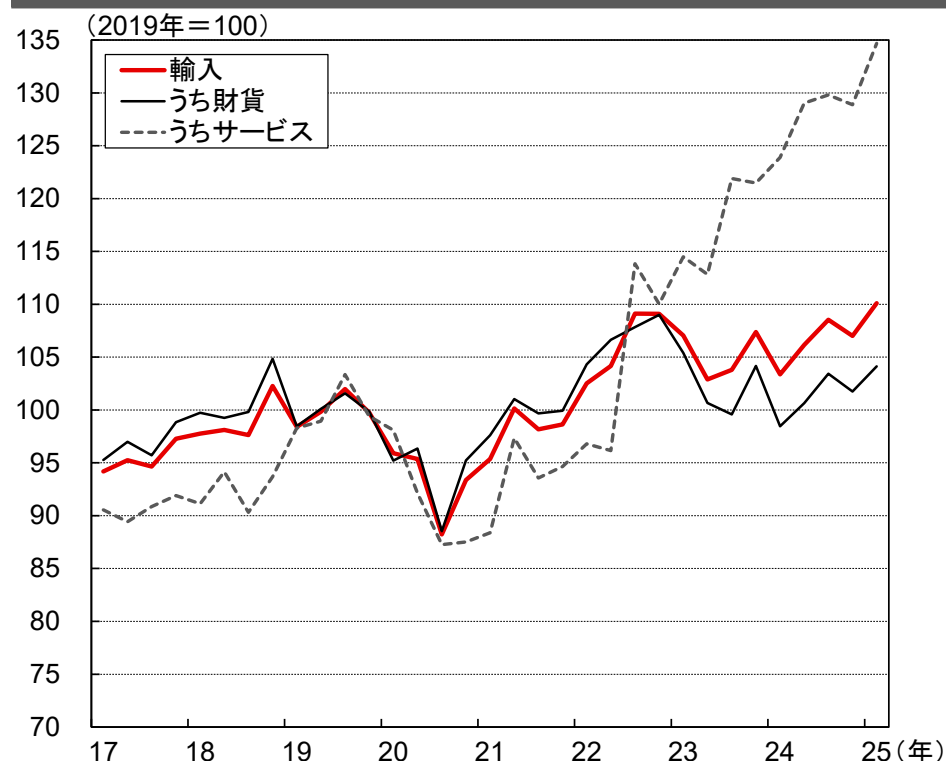
- 輸出は前期比年率▲2.3%と、4四半期ぶりに減少。
- 輸入は同+12.1%と、2四半期ぶりに増加。ウェブサービス利用料等の広告宣伝料が増えたほか、航空機や半導体関連の輸入が増えたことが背景にあるとみられる。
- 結果として、純輸出(輸出－輸入)の寄与度は同▲3.3%ポイントと2四半期ぶりにマイナス。

輸出(財・サービス別)の推移



(資料) 内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

輸入(財・サービス別)の推移



(資料) 内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できる
と思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。
内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により
保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。

会社名：株式会社三菱UFJ銀行 経済調査室
〒100-8388 東京都千代田区丸の内1-4-5 三菱UFJ信託銀行本店ビル

照会先：中山 健悟 e-mail:kengo_nakayama@mufg.jp